

「夜の動物街道(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

軽井沢と北軽井沢を結ぶ、夜の「動物街道」…ニホンカモシカと「お別れ」したあとも、びっくりするほどたくさんの動物に遭遇した。



これは「タヌキ」。タヌキは、夫婦仲が非常に良い。歩く時も、餌を探す時も、2匹揃って行動することが多い。しかし、動きが鈍重なので、よく車に轢かれる。2匹まとめて横たわっていることも多く、とてもかわいそうだ。この時は1匹だけだった。大抵は後を追うようにもう1匹現れるので、しばらく車を停めて安全を確かめてから、ゆっくり通過した。



写真は、私の山荘に設置した「地上の生き物観察カメラ」(赤外線高感度カメラ)がとらえた、タヌキの

夫婦である。タヌキを含めて多くの野生動物(陸上哺乳類)は、エサを探すための独自のルートを持っている。いわゆる「けもの道」である。一度道が確定すると、毎晩同じ場所、同じ時間帯に現れることが多い。左下に映っているタヌキのペアも、毎晩仲良く現れた。

続きまして「ニホンジカ」。この晩、一番驚いたのがこのニホンジカの突然の出現。よく山の中を走っていると、「動物注意」の黄色い道路標識を見かける。シカの絵が多いが、タヌキやサルなどの標識もある。

この夜のシカは、まさにこの標識と同じ飛び出し方をしてきた。ブレーキが遅かったら、間違いなく衝突



していたと思う。シカも大けがをするが、私のように軽自動車だと、車も相当なダメージを受けたことになる。

幸いこのシカとは「ニアミス」で済み、法面右側の斜面を駆け

上がっていった。なぜか、一旦止まって、こちらの様子を伺う。理由はよくわからない。有難いことに、こうして写真を撮ることができるわけだ。



写真を見ると、若いメスのようだ。お腹が少しふくらんでいるようにも見える。ニホンジカの交尾期は秋なので、もしかすると妊娠中かも知れない。それにしても動物たちは、こんな月明も人工光のまったくない暗夜に、どうやって周囲の状況を判断しているのだろう。見えているのか、それが本当に不思議である。